

で 50km の間の川中島の興亡は雄大にして、風光は明媚である。

都市文化との隔絶により、住人は穏やかな気質を留め結束し、凶悪犯罪も無い。

そして素朴な住人たちの日本人開拓者への敬慕の情は、凄まじいの一言。

かつての南拓試験場跡地の周辺は、高級住宅地に変貌し、小さな飛行場を隣接する緑豊かな林苑に、日本ブラジル文化会館は、ひっそりと佇む。

職員室に鎮座するブロンズの金次郎先生像は、大河の未来を見つめている。

土の覇者

モンテ・アレグレ移住地は、8年間の農事研究と試行錯誤から現地に適合した牧畜農業に活路を見出し、経済的自立のめどが立ち始める。

その頃、同じく南拓経営の主力アカラ移住地 Acará の窮状打破を決意する。

事業成果は全て同志団員に譲り、完全に無に還り、大河を下るのだった。

河口の都ベレン Belém より 150 km 内陸に向かうところの高台地 terra firme テラフィイルメ、東京一名古屋ほどの距離に道は無く、大蛇行を繰り返す一本の原始河川に辛うじて命脈を繋ぐアカラ移住地。今は一大発展して、トメアス Tomé-Açu と称されている。

60 万ヘクタールの入植地では、マラリアと黒水病が猖獗し、農作物の病壊滅により極度の貧困にあえぎ、死者、退耕者を続出させていた。

平賀練吉の救援は、当時の南拓の移住地監督役員にしてブラジル社交界の名士 コンデ・コマ まへだみつよ こと前田光世 の要請に応えての決断である。

日焼けした平賀練吉は「それは父が私に託した事業である」と淡々と語る。

絶望のどん底に沈む日本人移住者にとって若き指導者夫婦の着任は、大きな光明であり、新たな希望と団結を呼び覚ました。

平賀練吉の農業技術と世界情勢に関する知識は、農業組合の基盤を作り上げ、アマゾンア史上空前の定住農業実現へと繋がるのであった。

いつも美しく明るい清子夫人の快活な笑いと、豊かな教養による女子教育への貢献は計り知れないが、ご本人は微笑むだけで、手柄話は何も語らない。

ちなみにコンデ・コマは、ブラジリアン柔術 (葡語: jiu-jitsu brasileiro) の祖として有名になっているが、アマゾニアの新天地に、日本人の可能性を追求した実業家でもある。歴史の重大局面に、武人の描く至誠の道は、気宇壮大である。

知性溢れる早稲田の森の柔侠は、アマゾニアの開発の歴史にその名を刻む。

森林農法

黎明期のアカラ移住地は、野菜の生産で命脈をつないでいた。

期待のカカオ樹は、病害で全滅し、全力投入の米の市場も無い。

大河流域の乾季には、泥カニ caranguejo から ピラルク pirarucu、タンバキ tambaqui、ツクナレ tucunaré、ナマズ 類などが無尽蔵かと想われるほどに魚類が市場に溢れ、日本人農業者の奮闘を嘲笑うかのようである。

河を下ってベレンの街で野菜を売り歩く日本人移民の集団は異様であった。